

花にこだわったまちづくり

花と緑のまちづくり推進プラン



花のかけはし事業 2005.6.12



花と緑のまちづくり事業 大導寺児童公園 2005.6.26



おくのほそ道フラワーロード花咲草会 2004.5.28



第 15 回全国花のまちづくりコンクール大賞受賞
2005.10.26

山形県尾花沢市

目 次

はじめに 花と緑のまちづくり推進プランとは	・	1
1．プラン策定の趣旨・目的		
2．プランで対象とする花の概念		
3．花の役割・機能		
． 花を活かしたまちづくり活動の現状と課題		3
1．花を活かしたまちづくり活動と社会風潮		
2．本市の地理・自然生態系の特徴		
3．花を活かしたまちづくり活動と取り組みの現状		
4．花を活かしたまちづくり活動の課題		
． 花と緑のまちづくり活動の理念と目標	・	6
1．基本理念		
2．活動の目標		
． 花と緑のまちづくりの基本方向		7
1．住民の自立・継続した花と緑のまちづくり活動の展開		
2．地域らしさを活かした花と緑のまちづくり活動の展開		
3．環境の保全に資する花と緑のまちづくり活動の展開		
4．活動を支える支援体制の充実		
． 花と緑のまちづくりの推進方策		8
1．住民の自立・継続した花と緑のまちづくり活動の展開		
2．地域らしさを活かした花と緑のまちづくり活動の展開		
3．環境の保全に資する花と緑のまちづくり活動の展開		
4．活動を支える支援体制の充実		
． 今後の取り組み		13
1．花と緑のまちづくりの進め方		
2．きっかけとなる取り組み		
(1) 花と緑のまちづくりの「きっかけ」づくり		
(2) 花と緑のまちづくりのPR		
(3) 市民活動の自立を促す提案		

はじめに 花と緑のまちづくり推進プランとは



1 プラン策定の趣旨・目的

「花」は、古くから人間の生活に関わりの深いものとして、その美しさ、癒し、文化など多様な側面において人々のニーズの対象になってきました。また、身近で普遍的な性質から、地域の景観形成やまちづくりに効果的なものとして取り上げられています。

本市では、市名に花のつく自治体として、「花」や「緑」を媒体にし、市民の「参画と協働」により、まちづくり活動やコミュニティの場づくりを活発にし、「人と自然がおりなすふれあいの里」づくりの実現のため、「花にこだわったまちづくり」を推進しております。

この計画においては、「花」の性質・特長に着目し、現在、取り組んでいる花を活かした活動や関連事業の現状と課題を洗い出し、「花と緑のまちづくり」として、今後さらに広く活動を展開していくため、新たな理念と目標を設定し、活動を進める基本方向および推進方策を提案することを目的としています。

- ・ 花を活かしたまちづくり活動の現状と課題
- ・ 花と緑のまちづくりの理念と目標
- ・ 花と緑のまちづくりの基本方向
- ・ 花と緑のまちづくりの推進方策
- ・ 今後の取り組み



フラワーロード事業「寺内小学校」

2 プランで対象とする花の概念

「花」の持つ多様な機能をふまえ、草花や樹木等植物そのものの「花」や「緑」に限らず、それらに構成される、まちなみや環境、農業、産業、文化も含め幅広い概念としてとらえていきます。

まちなみなど景観を形成する花

道路沿、庭、施設の入り口などを彩る園芸植物

田や畑のそばや菜の花、コスモス、ヒマワリなどの景観植物

身近な生活空間を彩る花

個人の庭や室内で楽しむガーデニング用園芸種や観葉植物

自然生態系としての花

地域固有種、希少種

人が利用する植物

野菜、かざり花

農業・産業としての花

花卉産業

文化としての花

四季の花、万葉集に詠まれている花、俳句の花



市の花「ツツジ」

3 花の役割・機能

景観の形成、まちづくり機能

一輪の花は全体景観の中では微小な存在であり、その効果は認識されにくいが大きな面積を修景することで、見慣れた景観を全く異なる空間として感じさせることができる。

心理的機能・情緒作用

美しさ、華やかさ、可憐さ、はかなさなどの心理的作用。花の持つ潜在的な要素による、文学、絵画、音楽などへの昇華。

環境保全機能

みどりのバイオマスとして、二酸化炭素を吸収する機能がある。
心理的作用を与え、ゴミ減少など環境美化の効果が期待できる。
堆肥などを花の肥料として用土に再利用できる。

季節感

色彩やデザインの人為的演出による季節感の演出が可能である。

レクリエーション機能

花とのふれあいによる、直接的なレクリエーション効果がある。

集客機能

花のまちづくりによる観光資源化、イベントによる集客が見込まれる。

徳良湖畔
「ステラディオロ」



．花を活かしたまちづくり活動の現状と課題

1 花を活かしたまちづくり活動と社会風潮

戦後、物質的豊かさの追求を重視する価値観のもとで、めざましい高度経済成長を果たしました。しかし、こうした価値観はバブル経済の崩壊と同時に衰退し、環境破壊や自然生態系の悪化などにより循環型社会への変革など社会システム自体の変革が求められております。

同時に成熟化が進んだ社会においては、人々の価値観が多様化し、季節感や自然環境、ゆとりある生活、生きがいの実現など「心の豊かさ」が求められつつあります。また、都市への一極集中型の時代から、地域の自立や独自の風土の確立が求められる時代へと転換しつつあります。

このような社会の転換期の中で、行政だけが地域づくりを担うのではなく「参画と協働」により住民自らが、福祉や教育、まちづくり、環境など多分野に主体的に活躍する場が増えているのが現状です。

特に「花」については、生活に密着したものであり、身近で普遍的な性質から、地域の景観形成やコミュニティづくりの媒体、手段として活用されております。

2 本市の地理・自然生態系の特徴

本市は県の北東部に位置し、北は最上町、舟形町、東は宮城県に接し、標高は 70m から 1,500m と起伏に富んでおります。夏は暑く、冬は豪雪で日本三雪の地にも数えられる厳しい気象条件ですが、南端の山形・宮城両県にまたがる御所山は水源の森として豊かな自然が残っており、四季の変化が明瞭であります。

冬期の深雪という気象条件を反映した植物によって構成される典型的な日本海要素植物の分布区域で、高山帯から低山帯、丘陵地にかけて多様な自然生態系が育まれております。春になると葉をのばし活動を始め、秋には落葉するブナやミズナラを主体とした夏緑林で覆われ、林床は多雪地帯に適応したヒメモチ、エゾユズリハ、ヒメアオキ、ハイイヌガヤなどの常緑低木が発達しております。積雪は植物の生育にとってさまたげにもなりますが、反面、保温の効果もあり雪解けと共に立ち上がってすぐに活動を始められるという強靱性を持っています。また、日本の代表的な古い固有種が深い雪の中に温存されてきたという特徴があります。分布の北限の植物や県内唯一の自生地である植物、及び絶滅危惧植物も確認されております。

また、住居を構えた人里に近い生活環境の周りの植物は、自然の植生が人の影響によって育まれた二次的な生態系が各地に形成されました。スギやカラマツの植林地にミズナラ、ヤマウルシ、ヤマツツジなど多様な低高木が混じり合った林も出来上がってきました。さ

らに、最近伐採され少なくなっている平地のブナ林は、昔に植生されたものがそのまま残っている自然の遺産として大切な林であります。

市の中心部に近い徳良湖は、大正時代につくられた人造湖で花笠踊りの発祥地として観光面からも市民の貴重な地域資源であり、その恵まれた自然は野生動植物の宝庫として大切な区域です。

3 花を活かしたまちづくり活動と取り組みの現状

(1) 尾花沢市における取り組み

これまで、市内の取り組みとしては、国土交通省の道路愛護事業により国道沿線・ロータリー等への花の植栽や、県の補助によるメイクアップロード 21 推進事業で保育園、小学生、中学生や地域住民の参加による植栽事業が活発に行われております。これらの事業は、いずれも花苗の提供など物的援助により活動を支援していく方法であります。

また、衛生組織連合会の事業は、ゴミの不法投棄関連事業の一環として花を植栽する、環境美化活動に取り組み、各地域の隅々まで花を活かした地域づくりに大きく貢献しました。

さらに、国民文化祭を契機に組織された「花のかけはし実行委員会」の植栽事業は市民ボランティアによりバイパス交差点の大きな面積を、雑草の野原からきれいな花の景観を創りだしました。

翌年、平成 16 年度には、国土交通省の支援を受け、同省、尾花沢市、花のかけはし実行委員会の三者でボランティアサポートプログラムを締結し、それぞれが役割を明確にしながら協働で事業を展開しております。実行委員会のエネルギーは、市民の心のかけはしとなり、市内全域にさらに花の輪が広がるきっかけとなりました。

(2) 花と緑のまちづくり支援事業

国土交通省	・道路愛護事業
	・ボランティアサポートプログラム
県	・マイロードサポート事業 18 年度より名称変更 (旧メイクアップロード 21 推進事業)
	・きれいな川で住みよいふるさと運動推進事業
市	・花と緑のまちづくり事業
衛生組織連合会	・花いっぱい運動 18 年度より事業縮小

花と緑のまちづくり事業
「サインボード」
横町第 2 地区



ボランティアサポートプログラム



(3) 活動団体・個人における取り組み

地域における花の植栽活動の担い手としては、ボランティアグループのほか各行政区・老人クラブ・婦人会・子供会など地域のコミュニティに根ざした組織です。具体的な活動としては、道路沿いや地区内の公民館、神社の境内や衛生ステーション周辺への花の植栽や水やりなどの維持、管理が主であります。行政では、花苗や種子、肥料・マルチ・プランターなど原材料の支援、助成を行っておりますが、除草、水やりなど日々の管理体制が課題となっております。

国民文化祭というイベントにむけた花のかけはし事業の波及効果により、まちを美しくしようという機運が高まり、街路樹通りの花の植栽事業に発展したことは、住民の積極的な活動として一つの足がかりとなりました。

また、これからは花のかけはし実行委員会のようにテーマ性のある組織が地域の団体と連携し、どのように協働で取り組みを進めていくかがポイントとなってきます。

景観形成事業として、農業の分野から道路沿線や公共施設周辺の休耕田を利用した転作対象品目のそばやひまわり、菜の花などの植栽にも取り組んで、地域ごとの花ゾーンを進めていくことも検討課題です。

また、個人の庭を趣味の実現のためだけでなく、オープンガーデンとして推進し「個人の緑を、みんなの緑」に、まちの全体の景観としてとらえ、点から線へ、さらには面の活動へとつないでいく可能性を持っています。

さらに、保育園や学校との関わりとして、植物の世話を通した学習活動が各校で積極的に行われておりますので、「花の日を設定」するなど、心に咲く花を目標に事業を計画します。学校緑地については、物質面、技術的なアドバイスなど関心が高まっている状況で、PTA活動団体への育成支援体制が求められております。

4 花を活かしたまちづくり活動の課題

社会風潮、本市における花を活かしたまちづくり活動の現状を受け、今後、花と緑のまちづくりを進めていくにあたり課題となる項目は以下の通りであります。

(1) 住民による自立・継続した花を活かしたまちづくり活動の展開

社会の成熟化が進み、人々の価値観が多様化し、ゆとりある生活、生きがいの実現などが求められると同時に、住民の地域づくりやまちづくりへの参加の場面が増えております。そのような背景もあり、近年、住民の花を活かしたまちづくり活動への参加率は年々高まっている状況です。

活動や個人による取り組みにより、量の確保といった点では一定の成果を得ているといえます。しかし、行政からの物質的な支援がなくなると活動の継続が困難になる、限られた人だけに活動が集中し他の人に広がらない、活動者が高齢化している等というのが現状

であります。

今後、花と緑のまちづくりを展開していくにあたっては、行政と住民の適切な役割分担のもと、より多くの住民による「自立的」「継続的」な活動の体制づくりが課題となります。

(2) 行政の担うべき役割の見直し

住民が花を活かしたまちづくりに主体的に取り組んでおりますが、今後行政が住民による活動の自主性、自由さを尊重しながら、その活動をいかにサポートしていくかが重要なポイントとなります。

現在、全体的な傾向として花苗・種子配布などの「物的支援」が主であります。今後は「技術支援」や「場づくり」「普及や啓発」なども重要となります。また、画一的でなく、やる気と創意工夫のある団体へ優先的に支援するなど、効果的な支援体制も必要だと思われま。

また、「花と緑のまちづくり活動」を広く普及するため、市をあげたイメージづくりを行うことは、今後行政として市が担う大きな役割の一つであります。

さらに、花と緑のまちづくりの取り組みを本町地区の花のかけはし事業と各地区との交流活動とを効果的に連携させ進めていくことも必要となります。

・花と緑のまちづくり活動の理念と目標

1 基本理念

社会の成熟化に伴う人々の価値観の多様化、花を活かしたまちづくり活動における現状と課題を受け、「花と緑のまちづくり」をすすめるにあたっての基本理念を以下のとおりとします。

参画と協働による花と緑のまちづくりの展開

私的領域や公的領域といった所有形態にとらわれず、公開性の高い場所を中間領域としてとらえ、住民・事業者・行政など様々な主体が参画と協働により花と緑のまちづくりを展開していくことを基本理念とします。

また、住民及び行政の役割や意識を明確にし、住民は自立した活動を行うことを目指し、行政は住民の自立に対して適切な支援を行い、その活動の成長を長い目で見守ることを基本に運動を展開します。

新町第5長寿友の会



2 活動の目標

(1) 活動の目標

基本理念に基づき、活動の目標を以下の通りとします。



文化体育施設カルナードスタジアム

花と緑のまちづくり活動を通して、「心豊かな人・社会を育む」

花やみどりを媒体とした活動を通して、人々が自己の実現を繰り返し、段階を追って成長し、最終的には花・みどりの分野だけでなく福祉やまちづくり、教育など様々な面で活躍する技術と心の豊かさを得るように。また、そのような人々が心豊かな社会を育んでいくことを目標とします。

(2) 目指す姿

- ・花やみどりを通じた心の通い合うコミュニティ

花の世話をする人達の間で会話が弾み、花に関する話題以外にも様々な情報が交換され、心の通い合うコミュニティが育まれます。

地域に根ざした組織とテーマ型の組織が一緒になって活動し、より活発な事業が展開されます。

- ・花やみどりを通じ景観形成の確立

まちなみが季節感豊かな花であふれる。また、地域と地域が競いあうことで、それぞれの地域の個性が育まれ、ひいては地域全体の活性化にも結びついていきます。

- ・環境に配慮した社会、豊かな自然の育成

花やみどりの存在により、二酸化炭素の吸収量が増え地球温暖化の抑制に貢献するなど、環境に配慮された生活が送れるようになる。牛堆肥の使用など循環型を考えた栽培を工夫します。

・花と緑のまちづくりの基本方向

課題、理念と目標をふまえ、「花と緑のまちづくり」を進める際の基本方向とする。基本方向に基づき、花と緑のまちづくり事業を進めることにより、まちづくりへの積極的な参画やコミュニケーションの促進、地域間の連携を促し、花・みどりの分野だけでなく福祉やまちづくり、教育など様々な分野まで発展し、最終的な目標である「心豊かな人・まちを育む」ことを実現します。

多様な主体の「参画と協働」による花と緑のまちづくり

住民の自立・継続した花と緑のまちづくりの展開



地域らしさを活かした花と緑のまちづくりの展開

環境の保全に資する花と緑のまちづくりの展開

活動を支える支援体制の充実

1 住民の自立・継続した花と緑のまちづくり活動の展開

住民が主体となった活動の参加率は高まっているが、個々の活動が点であり、線、面へとつながっていない。したがって、今後、花と緑のまちづくりの活動を展開していくには、行政と住民の役割分担を適切におこなった上で、多くの主体が連携し、参画と協働により自立的・継続的な運動を進める体制づくりを行います。

2 地域らしさを活かした花と緑のまちづくり活動の展開

花やみどりは、景観を美しく彩るとともに、今後は、まちづくりの一環として花と緑のまちづくり活動を行い、個々の取り組みをまち全体の魅力向上へとつなげていくと同時に地域らしさを活かした特徴ある花と緑のまちづくりを展開し、地域らしさの再発見へと結びつくことが期待できます。

3 環境の保全に資する花と緑のまちづくり活動の展開

現在、地球環境破壊が大きな問題となっており、環境や生態系の保全などへの配慮が求められています。ヒートアイランド現象等諸問題に対応するために、「みどり」は重要な役割を果たします。

花と緑のまちづくり活動においては、環境や自然の生態系の保全を視野に入れ、豊かな環境を育むことを目標とします。

4 活動を支える支援体制の充実

現在、市では緑化資材の提供などの物的支援を行っているが、今後は住民による活動の自主性を尊重しながら、その活動をサポートする方向へと転換が求められています。

花と緑のまちづくりの推進方策

基本方向をふまえ、多様な主体の「参画と協働」による「花と緑のまちづくり」を進める方策を提案します。

1 住民の自立・継続した花と緑のまちづくり活動の展開

花と緑のまちづくりを展開していくにあたっては、地域コミュニティ、企業など、より多くの主体の参画と協働により自立・継続した花を活かしたまちづくりを進め、豊かで心の通い合うコミュニティづくりを行う。

(1) 多様な主体・年齢層の参画と人材の発掘・確保

住民の自立・継続した運動を展開するには、一部の人で進めるのではなく、多様な主体・年齢層の参画が必要となります。

このため、きっかけとしてワークショップを開催したり、園芸療法など福祉と関連させた取り組みを展開するなど、幅広い人材を活動に取り込んでいくのも方法です。

ワークショップの活用

住民が主体となりまちづくりを進めていく課程では、課題の共有化や、目標の共有化といった作業にワークショップの手法が用いられます。ワークショップは、住民の合意形成や交流の手段として非常に効果的であります。花と緑のまちづくりにおいても、親子参加で開催したり、地域の学校とも連携し子供たちと共に、花を活かしたまちづくり活動や活動を通じた環境学習に取り組んでいくのも一つの方法です。

取り組みは、地域のコミュニティが主体となり進め、アドバイザーとして花を活かしたまちづくりに関する専門家や情報提供者として行政も参画してまいります。

直接花を植える活動についてだけでなく、花料理づくり、花酒づくり、花ことば（万葉集、俳句）づくり、花染め、押し花、ドライフラワーづくり、花を活けるなど多彩な花に関連するワークショップを開催し、それぞれ関心のある分野を通して、花を活かしたまちづくりに関心を持ってもらうことも大切です。

高齢者や福祉に関連した花と緑のまちづくりの展開

花は生活に密着したものであり、その多様な機能は、人と人をつなげる役割を担っています。

また、園芸療法や生きがいづくりなど、医療や福祉の分野にも及んでいます。誰でも手軽に扱え、効果の高い花という特性を活かし、高齢者や身体に障害を持つ人の心を癒したり、社会参加の手がかりとすることもできます。

(2) 活動する組織、地域の自立を図る

花苗・種・土・水などの供給体制の確立

現状では、花苗・種子・プランターなど花を植える活動に必要な資材については、その多くが行政から支給されています。一方で、用土や肥料、水については、各活動者の負担となっている場合が多いのが現状です。

これらの支援事業は、段階的に自立的に供給する体制を整えることをめざしていきます。

- ・ 花苗、種子は、個人や活動団体で自ら種子、苗づくりを行い、供給する。余った花苗や種子は情報提供し交換や譲渡をする。

- ・ 水の確保については、花と緑のまちづくりを進めるにあたって重要な課題の一つではありますが、各家庭での雨水の貯蔵、ポリタンクや散水用の車両など地域の所有者を探すなど、活動団体が自ら調達することをめざす。
真夏を避けて花苗を植えるなど時期的な工夫をしたり、植える花苗の種類を工夫するなどの対応も必要となる。

循環の手法の採用

- ・ これまでの活動では、花苗などは一回使い捨て型のものが多く、次回の活動にもちいられることが少なかった。花苗など園芸資材を自立的に供給する体制を整えるために、花苗は宿根草による循環の方法を取り入れる。
- ・ 花苗、種子の自立的な供給体制を確立するためにも、毎年種子を採取し、種子から育てる方法を実践する。
- ・ 森林の間伐材、プランターのリサイクルについては、森林組合等との連携を図り、間伐材を花壇のフレームなど園芸資材として用いたり、チップとして堆肥化に利用するなどの方法をとる。
- ・ 水については雨水利用、井戸水、流雪溝など循環する方式により散水用の水を確保する。

2 地域らしさを活かした花と緑のまちづくり活動の展開

自らが住む地域のことをよく知り、その気候や風土、生活文化面など地域らしさを活かした特徴ある花と緑のまちづくりを展開し、個々の取り組みをまち全体の魅力向上へとつなげていきます。

(1) 花を資源とした地域らしさの再発見と情報の発信

自然生態系としての花やみどりは、気候風土に大きく依存しております。そこで、地域の花にまつわる歴史や文化を掘り起こしたり、それをマップにしたり、地域の花を見直すことで、地域らしさを共有化し、対外的に発信する資源の一つとして守っていくことをねらいとします。

地域の花にまつわる歴史・文化の掘り起こし

- ・ ワークショップなどを開催し、花にまつわる歴史や文化、祭り、風習や伝統、草花を利用した季節の行事などを掘り起こし地域ごとにまとめる。
- ・ ススキは、古来より日本の植物として歌に詠まれるなど多様されてきたが、とくに観月祭とした月見には欠かせない植物である。利用の仕方は地域によって違いはあるが、十五夜には、ススキと一緒に餅やいもを縁側に供え、月を愛でる風習が一般的である。

- ・ 郷土種として、昔から愛され親しまれている種など、地域さしさという視点で種類を選定し、地域の花として育成していく。

花マップづくり

- ・ 花にまつわる地域や、花の景観の美しい個所、特色ある花を活かした活動を行っている地域をマップ化し、広くHPなどで紹介していく。

花と緑のまちづくりを通じた地域間の交流

- ・ 花づくりや土づくりを学びながら、共に花を植えたり維持管理を行うなど、花と緑のまちづくりを通じた地域間の交流を図る。
- ・ 一地区一品種の選定により、地域間の交流に特色をもたせ活性化を図る。

(2) 花と緑のまちづくりを通じた地域の魅力アップ

地域づくりを展開していくためには、地域の歴史・文化、自然を再発見するとともに新たな地域の魅力づくりも大切である。

(3) 地場産業の育成で地域の活性化の促進

地場産業として花づくりに取り組んでいる地区については、運動の中で産業を育成し、地域の活性化につなげることをねらいとする。

- ・ 花卉づくりに取り組んでいる生産農家やJAと連携を図り、花苗の流通や特産品の開発を行うなど、地域産業に結びつく花と緑のまちづくりを展開していく。
- ・ また、花卉の販売だけでなく専門技術を生かした講習会の開催などの技術提供を行い産業を活性化させる。

3 環境や多様な生態系の保全・創出に資する花と緑のまちづくりの展開

地球環境や生活環境において、花やみどりは重要な役割を果たす。花と緑のまちづくりでは、環境への対応、自然の保全・育成など、環境や生態系の保全・創出を視野に入れた取り組みを行う。

(1) 環境問題に対応した花と緑のまちづくり

近年、環境の悪化や石油など資源が減少している。花やみどりは、景観形成などの機能の他に、二酸化炭素を吸収したり、温度を下げる機能があります。

そこで、花と緑のまちづくり活動を通じ、地球温暖化やヒートアイランド現象、資源活用などの環境問題への対応を図る。

- ・ 地球温暖化、ヒートアイランド現象の抑制

(2) 地域特性に応じた多様な生態系の保全と創出

地域には気候風土に応じた多様な生態系が育まれている。花と緑のまちづくりを通じ、これら多様な生態系の保全を図り、希少種や郷土種の保全と創出を行うことをねらいとする。

花と緑のまちづくりから地域の植生保全へのステップアップ

地域にはそれぞれの暮らしやなりわいに育まれた自然があります。市街地の花と緑のまちづくり活動から発展させ、自然の植栽保全のとりくみを展開する

希少種、郷土種の保全・復元

- ・ 春には「スマレ」「オキナグサ」「アズマギク」夏には「レンゲツツジ」「ノハナシヨウブ」秋には「オミナエシ」や「キキョウ」など秋の七草として親しまれた種や「センブリ」「ミソハギ」「ヒヨドリバナ」が咲き乱れ、今では絶滅に瀕している植物が多数生育していました。これら地域の風習や郷土に根ざした種に関し、地域単位で保全・復元を図る。
- ・ 地域を越えての増殖と移植や外来種の植栽は、地域固有の遺伝子を攪乱させる恐れがあるため十分な配慮が必要である。

4 活動を支える支援体制の充実

住民の主体的な活動が広がる中で、行政の役割は住民による活動の自主性、自由さを尊重しながら活動をサポートすることに移行しつつあります。

これまでの支援の主な内容であった花苗・種子・土など物的な資材については各活動者が自主的に確保する体制を整えることをめざし、行政は人材育成、技術支援、場づくり、普及・啓発、情報発信・PRのしくみづくりなど、活動者の自立を支える支援制度の充実を図る。また、円滑でより効果的な支援の実施のため、花と緑のまちづくり事業推進体制の整備及び関連施設との連携を図る。

(1) 人材育成、技術向上、場づくりのための支援制度

アドバイザー派遣等の支援

花を活かしたまちづくり活動の初動期等において、アドバイザーとして専門家の派遣を行う等の支援を検討する。

セミナー、講座等の開催及び花を活かしたまちづくりリーダー人材登録

- ・ 花と緑のまちづくり活動の担い手となる人材育成のため花を活かしたまちづくりの技術や活動に関するセミナーや講座を開催する。

アダプト制度の活用

- ・ 公共用地において、地域の住民や団体が維持・管理を行い、現場にサインなどを提示できる「アダプト制度（養子縁組制度）」がもちいられています。花と緑のまちづくり活動においても、アダプト制度を用いて住民や団体と養子縁組を行い、活動の場を提供する。
- ・ 公共用地以外の民のアダプト制度についても検討する。個人の庭で、所有者の高齢化などにより手入れがされていない庭について、地域ぐるみで応援団を結成し、維持・管理を行うなどが考えられる。

(2)普及・啓発に関わる支援制度

表彰制度、コンクールの実施

- ・ 住民主体の花を活かしたまちづくり活動は、「きっかけ」から始まり、「参加」「自己実現」と徐々に成熟度合いを増し、より高い目標へと成長していく。
- ・ 表彰制度やコンクール、企画コンペ式の花を活かしたまちづくり活動など、それぞれの成熟度合いに応じて活動を促す制度や場を設け、目標への到達を目指す。

花を活かしたまちづくり活動団体の交流会の開催

- ・ 花を活かしたまちづくりに関して、活動者、活動団体間で情報交換を行い、活動を広げていくための交流会を開催する。

(3) 関連施策との連携

地域間交流、各種地域づくりとの連携

総合学習等との連携

花卉産業との連携

．今後の取り組み



保育園・幼稚園児「花のぬりえ展」

1 花と緑のまちづくりの進め方

基本理念に基づき、花と緑のまちづくりを進めるためには、現状で行われてきた行政サイドの物的支援を、徐々に住民の自立的供給体制へと移行し、最終的には住民が自立して活動を進めるしくみをつくる必要がある。

しかし、活動を軌道に乗せる助走期間においては、行政が果たす役割も大きく、活動の起爆剤としての役割が求められる。したがって、当面は「きっかけづくり」として、花と緑のまちづくりモデル事業として住民が気軽に花を活かしたまちづくりに参加できるような提案を行う。

2 きっかけとなる取り組み

率先して進めることにより、他への波及効果が見込まれたり、行政として取り組む必要が高いものや、住民の自立した活動を支えるものについて、具体的なアプローチ手法を提案する。

(1) 花と緑のまちづくりの「きっかけ」づくり

重点地区・路線等の花と緑のまちづくり活動

参画と協働の視点をふまえた上で、重点地区・路線を決める等、花と緑のまちづくりを重点的に進める方策を定めることにより、地域での花の植栽活動のきっかけとなり、他の活動へ波及することを目指す。選定した重点地区・路線については、花を活かしたまちづくり関連事業による住民団体支援を行い、花と緑のまちづくりの展開を図る。

また、特色ある活動を実施している団体についてはは重点的に支援していく。

(2) 花と緑のまちづくりのPR

花と緑のまちづくりコンテスト

- ・ 活動団体が、活動の評価を受けることによって、その思いを達成し自己を実現しさらなるステップへと活動のレベルアップが図れる。
- ・ 表彰された個所を回るツアーを実施しより活動が広まるような工夫を行う。
- ・ 団体の希望者により地域の個人の敷地や公共の場所を見て回り、ピックアップして紹介していく。
- ・ 活動団体自らが審査委員となりコンテストを開催する。

(3) 市民活動の自立を促す提案

住民が自立して活動を進める際に、中間支援機能となる「情報交換の場」「多様な主体の参画の場づくり」「種子や花苗供給体制の確立」「花苗生産者との連携と技術の向上」について提案します。

花を活かしたまちづくり活動団体の交流会の開催

花をいかしたまちづくりに関わる団体が互いに抱える課題や問題を共有し、相互にアドバイスを行う場を持つことで、それぞれの活動を前進させる。また、ネットワークを形成することで、活動の広がりを確保する。

地域の花マップづくりワークショップ

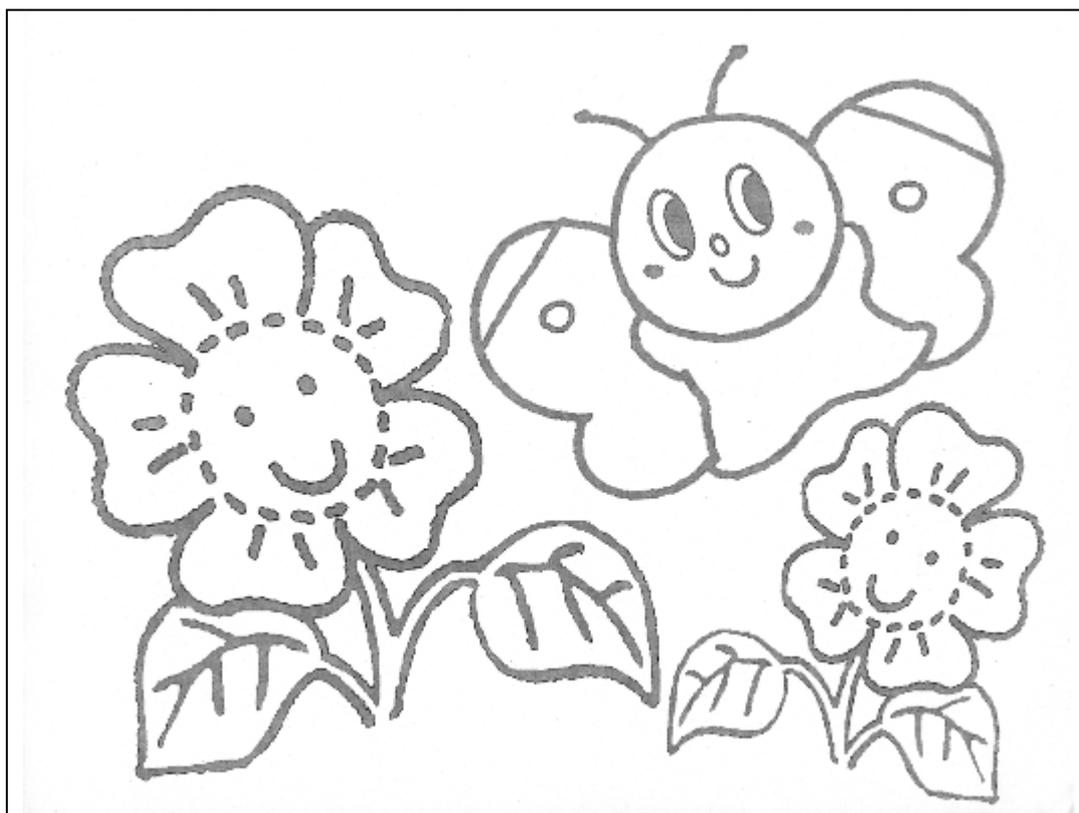
「花を活かしたまちづくり活動」となると関わっている人は、自治会などの活動の一環としてや一部の積極的な人に限られてきます。とくに近年、ほとんどが退職期を迎え

る団塊の世代や 20 代から 40 代までの若い世代も含め、世代を越えた多くの人に関われる仕組みをつくる。

種子・苗木交換システム（循環や交流の視点をもった花と緑のまちづくり）

家庭で眠っている花や種子、自ら採取したが使われず余っている種子を有効に活用するため、花の種子交換システムをつくる。

- ・ 花と緑のまちづくりを実行している団体を対象に余剰の種子や花苗を無償で提供、交換できる循環のシステムをつくる。
- ・ 各活動主体が花の種子・花苗を自由に共有、交換、提供することにより、花の種類を多様に展開し、花にこだわったまちづくりに関する情報交換ができる。



花のぬりえ 原画